

オンリーワンの自然をとらえる!



—郷土館の研究活動—

郷土館ではさまざまな生き物の調査を行っていますが、今までなぜこの調査が必要なのか? なんの役に立つのか? といった説明があまりされてきませんでした。

そこで今回の展示では、あまり語られることのなかった郷土館の研究活動と、その結果がどのように役立っているのかを紹介します。

◆展示予定

- | | |
|--------------------|---------------|
| 9月12日(月)~16日(金) | 阿歴内公民館 |
| 9月20日(火)~28日(水) | 茶安別農村環境改善センター |
| 9月29日(木)~10月5日(水) | 開発センター |
| 10月6日(木)~13日(木) | 虹別酪農センター |
| 10月14日(金)~20日(木) | 磯分内酪農センター |
| 10月21日(金)~27日(木) | 久著呂中央小中学校 |
| 10月29日(土)~11月4日(金) | 塘路住民センター |
| 11月7日(月)~11日(金) | 沼幌小学校 |
| 11月14日(月)~18日(金) | 中御卒別小学校 |
| 11月21日(月)~30日(水) | 図書館 |



平成22年度の展示の様子

※各会場の最終日は正午で展示を終了します。

大川のほとり

—郷土館だより(第51号)—
☎487-2332

開館時間
午前9時30分~午後4時30分

初夏から夏のセミの声に切り替わったと思っていたら、もうヤブからキリギリスの声。
昼間は暑いのですが、朝夕の冷え込みに秋を感じます。(辻)



郷土館の集治監展示室にて
学芸員と共に写る三栖氏(左前)

これまでの広報紙に連載している「しべちゃ※しろ」との集治監人物伝も、三栖氏の記録を元に書かれています。
三栖氏が生前特に気にかけていたのが、釧路川流域にかつてあったワッコロベツと呼ばれた舟着き場の場所の特定です。集治監時代に使われていたワッコロベツ舟着き場には、川沿いに宿泊施設も設置されていた記録が残っています。茅沼コッタ口付近を流れる、釧路川沿いに

三栖氏は、昭和26年に標茶町公民館に勤務した際、当時公民館長であった(のちの標茶町長)高島幸次氏から「三栖くん、(近代)標茶の歴史は釧路集治監から始まっていることを忘れてはならないよ」との一言が忘れられなかったと著作のあとがきに記しています。三栖氏は標茶町役場を退職した後、精力的に釧路集治監に関する資料を収集し、「釧路集治監シリーズ」を発行しました。全8巻に別冊として1冊を加え、合計9巻となる「釧路集治監シリーズ」は三栖氏の代表的な著作で、前半5冊と別冊が、釧路集治監の施設や職員、囚人に関する記録について、後半3冊は教誨師と免囚保護の活動に力点を置いて報告されています。三栖氏は記録収集という形にこだわりました。

長年釧路集治監に関わる調査を行い、多くの著作を刊行した三栖達夫氏が7月にお亡くなりになりました。三栖氏が釧路集治監の解明に尽くした功績は計り知れないものがあり、それが今日、標茶の歴史を紹介する上で大きな役割を果たしています。今回は三栖氏と郷土館の関わりについて触れたいと思います。

釧路集治監を語る会

三栖達夫氏を悼む



いた

標茶の遺跡 最前線!!

縄文時代のお墓を発掘



塘路地区にて平成20年に発掘された「二股遺跡第3地点」の大型竪穴住居、そして平成22年に調査された「ウライヤ遺跡越善地点」で見つかった、縄文時代の墓より出土した縄文人の歯骨など、豊富な写真パネル、貴重な発掘資料を公開します。

また今回は「縄文時代のお墓を原寸大で表現!」「遺跡があった頃の標茶の情景!」などのユニークな模型も併せて展示します。ご見学をお待ちしています。

◆開催日程

(開館時間・休館日は各館により異なります)

- 塘路湖エコミュージアムセンター 10月7日(金)~21日(金)
- 開発センター 第4研修室 10月25日(火)~31日(月)
- 役場1階ロビー 11月1日(火)~15日(火)
- 郷土館 11月16日(水)~12月16日(金)

※見学無料

※役場1階ロビーでの展示は防犯と展示スペースの関係上、他の会場とは異なり、簡易な展示となります。



大型竪穴住居の模型

こんなことしています!

郷土館の仕事⑦

教育普及(自然)



郷土館では、集めた資料や調査で分かったことを来館者への解説や自然観察会、各学校での授業対応、広報紙などを通じて、みなさんにお伝えしています。

今まで①調査研究②収集保存③展示公開④教育普及と、郷土館の仕事の4本柱を紹介してきましたが、実はこの「教育普及」はゴールではありません。例えば観察会を通じて、お客さんから貴重な植物が自生している情報を得て、また次の研究が始まることもあり、郷土館では、この4本柱が互いに連携しており、どれも欠かすことのできない大切な仕事なのです。

地に行かなければ分かりませんでした。そんなときワッコロベツ舟付き場の写真が発見され、「背後に写る山の形を参考にすれば場所の特定ができるかもしれない。ただもう行けないかなあ」そんな話をしています。

釧路集治監について直接知る人はいませんが、今でも数年ごとに新情報や新資料が発見されています。また関係者の子孫の方々が標茶へ来られることもあり、まだまだ集治監については解らないことも多く、研究半ばという状態です。三栖氏は失われつつあった集治監の資料を探して関係者との絆を深めながら、多くの方々に成果を伝えました。郷土館も古い道具と情報を集め、次代へ伝えることが大切な役割の一つです。釧路集治監についても調査を進め、みなさんに伝えていきたいと思っています。

最後に三栖氏への感謝と共に、ご冥福をお祈り致します。